令和５年度 国語科 研究のまとめ
中西果織・吉岡大泰・岡本恵里香

○読み聞かせを通して、物
語に深く入ることができ
た。一次感想の文量が増え、
多くの感想を書いていた。
・単元導入の時に絵本と電
子黒板を用いた読み聞かせ
を行い、物語の世界観を感じ
られるようにした。
・単元への導入
授業
実践力
○書くことが苦手な児童
が、自分の考えを多く表出
させていた。
・物語の中に自分を登場さ
せる創作活動を行った。
・思考の深まり
○友達が創作した作品をも
とに、本時の学習課題題を
作ることができた。
・児童が創作した作品をも
とに学習課題を設定するこ
とで、児童の学ぶ意欲を引き
出した。
・主体的な学習
授業
分析・
評価力
●言葉を「まとめる」ことは
できていたが、内容に個人
差がみられ、個人内での質
的向上があまりみられなか
った。
・つけたい「言葉の力」を明
確にし、言葉を「まとめる」
学習活動を段階的に設定し
た。
・次時へのつながり

（３）中学校国語 ２年「走れメロス」
資質能力 児童・生徒の姿 手立て キーワード
授業
構想力
〇メロスに対して一義的に
評価するのではなく、多角
的にその人物をみつめる記
述が全員にあった。
・「もしも転生して○○（登
場人物）になったら、どう思
うか」という問によって、初
読のイメージから脱却した。
・「参加」する文学体験
●生徒一人一の多様な読み
や解釈があり、中には可能
性はあるが飛躍した解釈も
あった。
・グループで一つの意見に
まとめるのではなく、タブレ
ットで個人の意見を表出さ
せた。
・主体的な読み
授業
実践力
〇ゆっくり学ぶ生徒も十分
に意見の表出ができてい
た。また、生徒が本当に話し
たいことを自然発生的に交
流していた。
・思考を中断させないため
に、グループ交流や一斉での
指示を極力減らし、「個」の
時間を多く設け、教師がリー
ドしないようにした。
・指導の個別化
〇タブレットで他の人の疑
問点に回答する際に、普段
は意見を交流できない人に
も自己の考え伝えることが
できた。
・同じ学習活動、同じパター
ンの入力シートを使用する
ことと、タブレットを日常的
に使って慣れること。
・「課題設定学習」と「課題
選択学習」
・ICT による「学習の個性
化」

授業
分析・
評価力
〇生徒同士の交流で自分の
考えを深めていた。
●「これで合っています
か。」と教師に確認する生徒
が僅かだがいた。
タブレットでの入力は生徒
同士の即時共有ができたが、
教師がワークシートのフィ
ードバックを個別に、素早く
できるようにする。
・教える授業と育てる授業
２．研究についての考察
 今年度の研究では、国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表１に示した。その中で、重点的
に取り組んだ部分と再検討したことをもとに加筆した部分を下線部で示している。

表 1 国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力
資質能力 国語科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力
・つけたい「言葉の力」を明確にし、学習者が主体的に学習課題を設定することを教員
の立場から適切に支援すること。
・一単元 単元間 一年間 6 年間 3 年間 9 年間の学びを見通し、単元におけるつ
けたい「言葉の力」を焦点化すること。
・つけたい「言葉の力」に適した教材を見出し、作品が作られた背景や作品のもつテー
マ、文章表現の特徴など、教材のもつ特性を的確に把握すること
・学習者の発達段階を考慮しながら他者と関わり自分と向き合う単元を学習者ととも
に創造すること。
授業実践力
・児童の主体性を引き出す発問や手立てにより学習者の気づきや問いを発展的、有機的
につなげていくこと。
・豊かな言葉が行き交う学びを支える対話の場を作ること。
授業分析・
評価力
・学習者の発言や自己表現したものから学習者の変容を見取り、授業にいかす力。
・学習者の変容を見取るための適切な方法を定め、学習の記録を児童と共有して次時に
活かす力。

 国語科分科会で出た意見や指導助言を踏まえて、新たに「授業分析・評価力」に「学習者の変容を見取
るための適切な方法を定め、学習の記録を児童・生徒と共有して次時に活かす力。」を加えた。研究テー
マにある自分と向き合い豊かに言葉を紡ぎ出す学習者の姿を一次感想と二次感想を書くことのよって表
出することを試みた。しかし、参会者の意見では、この一時間の授業の中でどのような学習者の変容があ
ったのか、教師がどんな児童の姿を目指して授業をしていたのかという話題が多数でており、単元全体
での変容を見取るだけでなく、一時間の中での学習者の変容を明らかにすることも必要ではないかと考
えた。また、指導助言の中で、学習の記録を残しておくことの必要性についても触れられた。さらに、そ
の見取ったことを学習者と共有する工夫についても述べられた。このことにより、長期的な視点での授
業分析・評価だけでなく、一時間の中での変容の見取りを具体的に定めることも視野に入れたい。
以上のことから、本研究を通した成果と課題は以下の通りである。

成果 課題 ・つけたい「言葉の力」を明確にした授業構想に
より、学習者が主体的に学習課題を設定する授業を構想することができた。 ・各発達段階を考慮した単元構想ができた。また、
自分と向き合う単元を新たに創ることができた。 ・長期的な視点だけでなく、一時間の授業の中で
児童の変容を見取る視点や方法を検討する必要が
ある。 ・学習者に変容の自覚化を図るための新たな手立
てが必要である。